

令和3年第1回竜王町議会定例会（第3号）

令和3年3月12日

午後1時00分開議

於 議 場

**1 議 事 日 程（第3日）**

日程第 1 議第 9号 令和2年度竜王町一般会計補正予算（第8号）  
（予算決算常任委員会委員長報告）

日程第 2 議第 25号 第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについて  
（総務産業建設常任委員会委員長報告）

## 2 会議に出席した議員（12名）

1番	森島芳男	2番	中村匡希
3番	福田優三	4番	鎌田勝治
5番	橘せつ子	6番	尾川幸左衛門
7番	大前セツ子	8番	澤田満夫
9番	磯部俊男	10番	貴多正幸
11番	岡山富男	12番	小西久次

## 3 会議に欠席した議員（なし）

## 4 地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

町長	西田秀治	教育委員会教育長	甲津和寿
副町長	杼木栄司	総務主監	市田重宏
住民福祉主監兼 発達支援課長	奥浩市	産業建設主監	井口清幸
会計管理者	小森久美子	総務課長	間宮泰樹
未来創造課長	凶司明德	中心核整備課長	森徳男
税務課長	川嶋正明	生活安全課長	寺嶋要
住民課長	中寫幸作	福祉課長	西村忠晃
健康推進課長	中原江理	農業振興課長	中山孝彦
商工観光課長	岩田宏之	建設計画課長	市岡忠司
上下水道課長	森岡道友	教育次長	知禿雅仁
教育総務課長	町田啓司	学校教育課長	山添美実
生涯学習課長	込山佳寛		

## 5 職務のため議場に出席した者

議会事務局長	西川良浩	書	記 中野ゆかり
--------	------	---	---------

開議 午後1時00分

○議長（小西久次） 皆さん、こんにちは。ただいまの出席議員数は12人であり  
ます。よって、定足数に達しておりますので、これより令和3年第1回竜王町議  
会定例会を再開いたします。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

これより議事に入ります。

~~~~~ ○ ~~~~~

**日程第 1 議第 9号 令和2年度竜王町一般会計補正予算（第8号）**  
**（予算決算常任委員会委員長報告）**

○議長（小西久次） 日程第1 議第9号、令和2年度竜王町一般会計補正予算  
（第8号）を議題といたします。

本案は、予算決算常任委員会に審査を付託しておきましたので、その審査の経  
過と結果について、委員長より報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長、尾川幸左衛門議員。

○予算決算常任委員会委員長（尾川幸左衛門） 議第9号、予算決算常任委員会報  
告。

令和3年3月12日

委員長 尾川幸左衛門

去る3月9日の本会議において、本委員会に審査の付託を受けました議第9号、  
令和2年度竜王町一般会計補正予算（第8号）について、審査の経過と結果を報  
告します。

本委員会は、3月11日午前9時より、301会議室において委員全員出席の  
もと委員会を開催し、西田町長、関係主監及び次長をはじめ関係職員等の出席を  
求め、説明を受け審査いたしました。

議第9号、令和2年度竜王町一般会計補正予算（第8号）は、補正予算（第7  
号）までの歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,869万3,000円を  
減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ80億4,001万円に改める  
ものです。

主な質疑応答。

総務部門。

問) 歳入でゴルフ場利用税交付金が750万円の減額となっているが、町内の

ゴルフ場では利用客が多く、減額理由が不明である。どのような積算か。

答) 国から県を通じての通知により減額となっている。新型コロナウイルス感染症の影響でゴルフ場を閉めておられたことも含め、年間を通じて利用が減っていると想定する。国の積算式による額となるため、町として何ともできない部分があるが、今後、この交付金についても、さらに交付されるように要望することも検討していきたい。

住民福祉部門。

問) 障害児ホリデーサービス事業委託料の295万5,000円の減額について、新型コロナウイルス感染症の影響かと思うが、どのように中止の決定をしたのか。

答) 春休みは人数制限をしながら事業を実施できたが、夏休みは期間が短くなったため、要綱に定める事業実施の回数を確保できず、開催できなかった。開催しないことについては法人と町で決定したが、保護者からの苦情はなかった。

産業建設部門。

問) 道の駅竜王かがみの里機能拡充検討委託料200万円の増額理由は。

答) 株式会社ワコール所有の土地が約3万8,000平米あり、そのうち約4,000平米を国に買い取ってもらい、大型トラック用の駐車場にさせていただく。その残地について、道の法線を含め、今後を見据えた構想をつくっていきたい。民間事業者による活力可能性調査などプロポーザルを考えている。

教育委員会部門。

問) クライミング施設実施設計業務委託料250万円の減額理由は。

答) 当初予算では、総合運動公園内のレストハウスを改修し、クライミング施設を造る予定であったが、今年度に入り、総合運動公園自体の拡充を検討する中で、クライミング施設を新築することとなった。改修のための実施設計をする必要がなく減額した。

意見。

年度内に計画が変更となり、事業廃止により予算が大きく減額となる事例があった。当初予算計上時に内容を今まで以上に精査し、計画性を持って予算執行されるように努められたい。

以上、慎重審査の結果、全員賛成で、議第9号は原案のとおり可決すべきものと決しましたので報告いたします。

**○議長（小西久次）** ただいま、予算決算常任委員会委員長より、審査の経過と結

果の報告がございました。

これより委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑ありませんか。

[「なし」の声あり]

○議長（小西久次） ないようでありますので、質疑はこれで終結いたします。

これより討論に入ります。

討論ありませんか。

[「なし」の声あり]

○議長（小西久次） ないようでありますので、討論はこれで終結いたします。

これより採決を行います。

お諮りいたします。

日程第1 議第9号、令和2年度竜王町一般会計補正予算（第8号）を委員長報告のとおり決定することに賛成諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（小西久次） 起立全員であります。よって、日程第1 議第9号は委員長報告のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

**日程第 2 議第 2 5 号 第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについて  
（総務産業建設常任委員会委員長報告）**

○議長（小西久次） 日程第2 議第25号、第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについてを議題といたします。

本案は、総務産業建設常任委員会に審査を付託しておきましたので、その審査の経過と結果について委員長より報告を求めます。

総務産業建設常任委員会委員長、澤田満夫議員。

○総務産業建設常任委員会委員長（澤田満夫） 議第25号、総務産業建設常任委員会報告。

令和3年3月12日

委員長 澤田 満夫

去る3月2日の本会議において、本委員会に審査の付託を受けました議第25号、第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについての、審査の経過と結果を報告します。

本委員会は、3月4日午後1時より、301会議室において委員全員出席のも

と会議を開き、西田町長、市田総務主監、凶司未来創造課長及び関係職員の出席を求め、次のとおり説明を受け審査いたしました。

第六次竜王町総合計画基本構想は、令和3年度から令和12年度までの竜王町のめざす将来像、施策の大綱等を示したものであり、町長の諮問機関である、竜王町総合計画審議会において調査、審議された。その後、令和3年2月に本審議会において、取りまとめられた基本構想を町長に答申されたことを受けて、本定例会に上程したものであるとの報告があった。

本委員会においても、令和2年12月から複数回の所管事務調査を行い、委員からも提言できる機会を設けた。所管事務調査の経過と詳細は、別途、報告するものとする。

以下、詳細の骨子は、次のとおりである。

#### 1、まちづくりの基本理念

次世代に誇れるまちづくり

- ①豊かな自然と歴史を誇れるまちづくり
- ②みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり
- ③地域特性を活かす持続可能なまちづくり
- ④協働によるまちづくり

考え方。第五次竜王町総合計画に掲げた基本理念を基に、現在の社会潮流を踏まえたもの。

#### 2、めざすべき2030年の竜王町の姿

- ①若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷  
～心弾む 新時代へのチャレンジ～

考え方。町民と行政が共有できる到達点のイメージを示したものである。特に第六次竜王町総合計画では、若い世代を中心に希望を持つ人に焦点を当て、その誰もが希望を実現することができるまちをめざす。

#### ②将来人口の見通し

- ・2030年1万1,000人以上
- ・2040年以降1万人以上
- ・生産年齢人口比率56%以上

考え方。若い人を中心に転出超過が続く中で、子育てや教育環境整備等の充実と、関係人口の取込みや交流人口の増加を図る施策で定住人口の増加につなげる。

#### ③土地利用の全体方針

- ・ 中心核と各拠点へのバランスの良い機能配置
- ・ 町内外の拠点をつなぐ道路軸の強化
- ・ 農商工、住などの地域特性を活かす土地利用

考え方。竜王町コンパクトシティ化構想を見据えながら、竜王町ランドデザイン構想における30年後のまちの理想の姿を念頭に、安全と安心を重視しつつ、核・拠点・軸を設定し、地域特性を活かした土地利用をめざす。

### 3、3つのまちづくり分野

- ①豊かさ 活力あふれるまちづくり
- ②やさしさ 安心して暮らせるまちづくり
- ③つながり みんなで進めるまちづくり

考え方。まちの将来像「若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷」～心弾む 新時代へのチャレンジ～の実現をめざすため、攻めと守りとつながりをキーワードに3つの分野を設定し、下位計画の基本計画を横断的に推進する。

主な質疑応答。

問) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で先行きが不透明な現在、私たちの生活も見直さないといけない状況であり、少子化で人口が減少していく中、コンパクトシティ化構想により多額の税金を小学校移転にかけることは逆行している。小学校の建替えは否定しないが、持続可能なまちづくりとして、今ある資産を活かすことも大事である。財政的に困難になったとき、福祉施策などが抑えられないようにすべきであるが、考えは。

答) 総合計画は、町民アンケートによる意向調査をも踏まえ、今、あるいは、10年後を見据えて何をしなければならないのかという観点で作成している。

この計画は、町をさらに活性化、発展させる必要から、「若者も」という言葉を入れている。従来からの福祉、健康、高齢者対策についても今まで以上に個別の施策で取り組んでいく。その前提で、財政も考えながらまちづくりをする。中心核だけつくるからその他の施策を減らすということではない。従来以上のサービスを提供することも行政の使命であると考えている。

問) 現小学校跡地の住宅整備について、例えば、周辺の自然との調和や既存地域の方との触れ合いもできる等、魅力的な住宅地を整備すべきであると考えているかどうか。

答) 住宅整備については、民間が進出できるように条件整備をすることが行政の仕事と考える。これからは、通信環境や脱炭素社会への対応等、魅力ある住宅

地の供給も考えなければならない。また、周辺環境や既存地域との調和も考慮すべきと考える。

問) 2030年の生産人口比率56%以上について、敢えて取り上げた理由は。また、実施計画に基づく事業の実施・検証についてはどのような考えか。

答) 生産年齢人口比率を設けたのは、現在、高齢者単身世帯・高齢者夫婦世帯の割合が増加しているため、自助(家族)と共助(地域)のそれぞれの力が弱くなっている。単に人口維持をめざすのではなく、若い人がいる家族が増えてほしいという思いで目標に入れた。また、基本計画につながる実施計画を基に毎年、進捗度や次年度に向けた課題も把握し管理をしていきたい。

以上、慎重審査の結果、議第25号は、賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決しましたので報告します。

**○議長(小西久次)** ただいま、総務産業建設常任委員会委員長より審査の経過と結果の報告がございました。

これより委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑ありませんか。

[「なし」の声あり]

**○議長(小西久次)** ないようでありますので、質疑はこれで終結いたします。

これより討論に入ります。

討論ありませんか。

5番、橘せつ子議員。

**○5番(橘せつ子)** 議第25号、第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについて。

上程されています第25号、第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについて、本議案を認定とする総務産業建設常任委員会の委員長報告について反対の立場から討論をします。

第六次竜王町総合計画基本構想は、今後10年間を見据えた竜王町の魅力あるまちづくりの指針として策定されたもので、今議会に提案されたところです。その中心的なものが、竜王町コンパクトシティ化構想に基づく中心核の整備と周辺各集落や団地を維持しつつ、ネットワークを構築するまちづくりにあります。特に中心核整備で、交流・文教ゾーンの整備は、最初の5年間で竜王小学校の新築移転から始まり、あと随時に学童保育所、幼稚園、給食センターなどの各施設を全部、図書館北西部に新築移転の予定です。



現在の1級農地を埋め立てての移転で、費用も総事業費約55億円、内訳として、昨日の地域活性化特別委員会で示されたところによりますと、小学校建設費30億円、その他の施設建設費用12.6億円、用地取得・造成費用7.4億円、道路・インフラ整備5億円とされています。

これは、竜王町の1年間の予算額に匹敵します。竜王小学校は現地建替えも十分可能ですし、駐車場等必要なところを拡大するだけで足りる。用地取得や造成、インフラ、道路整備費用12.4億円はかかりません。今ある土地など、資源は十分に生かすことが大事と考えます。コロナ禍の中で、より明らかになっていると思いますが、開発型の施策ではなく、持続可能なまちづくりを目指すべきです。

そもそもこの計画は、コロナ禍以前の計画です。コロナ禍で私たちは、医療・保育・教育・介護などのケア労働の大切さを知り、その整備拡充が地域交流につながることを学びました。この経験に学んで、将来の竜王町の在り方を検討すべきです。

この開発は、竜王町にとっても無謀なと思える超大型開発と言えます。多くの借金が次の世代に残ることは避けなければなりません。人口減少が進んでいる中で、とても危惧するところです。計画は見直すべきと考えます。

また、この移転する場所は、惣四郎川により近づくことになり水害の危険性も指摘されています。学校のグラウンドを貯水池にするという計画にも無理があるように思います。また、小学校を避難場所とするならなおさらです。その他各施設を1か所に集める計画もされていますが、避難場所として考えると、これからは分散型にするべきではないかと考えます。基本構想全体では、持続可能なまちづくりを掲げられていますが、この点については逆行しているように思います。

このような点から、議第25号についての反対討論といたします。

**○議長（小西久次）** ほかに討論ありませんか。

3番、福田優三議員。

**○3番（福田優三）** 私は、議第25号、第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについて、賛成の立場で討論いたします。

第六次竜王町総合計画基本構想は、計画期間を令和3年度から令和12年度までの10年間とし、まちづくりの考え方となる基本理念として、1つ、豊かな自然と歴史を誇れるまちづくり、2つ、みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり、3つ、地域特性を活かす持続可能なまちづくり、4つ、協働によるまちづく

りと、4つの考え方を持って次世代に誇れるまちづくりに取り組むとあります。そして、めざすべきまちの将来像を、「若者も暮らしたい 希望をかなえる 輝竜の郷～心弾む 新時代へのチャレンジ～」としています。

このめざすべきまちの将来像は、竜王町が直面する人口の維持や地域コミュニティの維持・活性化など、課題解決に不可欠な存在である「若者」に着目するとともに、ポストコロナ社会、脱炭素社会など、これからの時代に求められる社会やSociety 5.0やデジタル化など先端技術を身近に活用できる社会を想定しながら、豊かで利便性の高いまちづくりに挑むべく、新時代へチャレンジするまちの姿勢が示されております。

この姿勢は、変化の激しい社会に臆することなく、誰もがわくわくできるまちの実現に向けた挑む姿が示されているとともに、町民の皆様が求めている利便性の向上をめざすものであります。

また、将来目標人口については、人口減少に歯止めをかけつつ若者の人口を維持することで、人口1万1,000人以上、生産年齢人口比率56%以上としております。通常、目標人口では、人口のみを定めることが多いのですが、この基本構想では生産年齢人口の割合も定めており、非常に特徴的な目標となっております。この生産年齢人口比率を定めることができるのは、やはり竜王町には「若者」を維持できる可能性があるからこそ、定めることができるものであります。

今後、この基本構想を基に基本計画、実施計画を定めることにより、実効性の高い計画となり、竜王町の誰もがキラリと輝き、活力あふれる持続可能なまちとなることを期待して、私の賛成討論といたします。

**○議長（小西久次）** ほかにありませんか。

[「なし」の声あり]

**○議長（小西久次）** ないようでありますので、討論はこれで終結いたします。

これより採決を行います。

お諮りいたします。

日程第2 議第25号、第六次竜王町総合計画基本構想を定めることについてを委員長報告のとおり決定することに賛成諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

**○議長（小西久次）** 起立多数であります。よって、日程第2 議第25号は委員長報告のとおり可決されました。

以上で、本日の議事日程は全部終了いたしました。

これをもって本日の会議を閉じ、散会いたします。  
大変御苦労さまでございました。

散会 午後 1 時 2 7 分